



桜谷小学校だより 令和2年7月15日

7月 桜通信

ホームページを更新中！
「<https://www.rmc.ne.jp/~sakuraok/>」または「桜谷小学校」で検索ください。QRコードでも読み取れます。



「桜谷小学校感染症予防ガイドライン」のご協力をお願いします

蒸し暑くなり、手指の消毒がおろそかになったり、マスクをはずしたまま近距離でおしゃべりをしたりといった「ゆるみ」が出てこないか気がかりです。一方、7月に入って、全国で再び感染者が広がり始め、第二波の到来が非常に心配です。さらに今年は、例年なら夏休みにあたる期間に登校することになりますので、熱中症対策が急がれるところです。

そこで、裏面のように「桜谷小学校感染症予防ガイドライン」（改訂版）を作成しました。「熱中症を予防するために」以外は、以前からお伝えしている内容です。

学校でも家庭でも感染予防に努めることで、感染リスクを少しでも軽減したいと思います。引き続き、子どもたちには不自由な生活を強いることとなりますが、どうかご理解・ご協力をお願いします。



巖島様から手作りマスクをいただきました！

川原の巖島すみ江様から、児童・教職員全員分の手作りマスクをいただきました。材料がなかなか手に入らず、一枚を作るのにも時間がかかるのに、なんと140枚も作ってくださいました。色とりどりの布を使って一枚一枚ていねいに縫ってくださっていて、心からありがたく思いました。

全校児童を代表して、児童会長の寺本君と児童会副会長の川原さんに受け取ってもらいました。

今日、お子さんを通じて、一枚ずつ配らせていただきます。大切にお使いください。



JA グリーン近江様・サタ山善株式会社様からも

力強いエールをいただきました！

JA グリーン近江様からは、「コロナ禍で頑張る子どもたちに日野菜漬けを」と6年生一人ずつに2種類の日野菜漬けの新商品を頂戴しました。また、学校前の道路整備をしてくださっているサタ山善株式会社様は、卒業式、入学式に引き続き、学校前の県道525号線に「コロナに負けるな！がんばれ桜っ子」の看板を設置してくださいました。

地域の方の学校への温かい思いを受け止め、子どもたちの学校生活に喜びや活気が増えるように、力を尽くしていきたいと思ひます。



児童会からコロナ対策の呼びかけ

健康・給食委員会の5, 6年生が、コロナ対策を全校に呼びかけるためのビデオ撮りをしました。健康・給食委員会「コロナ研究室」からの呼びかけは、6月に続いて2回目です。今回は、エアコン使用時の換気の必要性を、ドライアイスを使った実験をしながら解説してくれました。

児童会執行部の5, 6年生は、挨拶運動のときに、登校後の手指の消毒の呼びかけもしてくれています。

「これをしたらダメ」と、大人から感染予防の細かい行動様式だけを教わると、他の場面に応用するのは難しいと思われます。このような子どもからの発信は、大変心強い取組です。今後は「こういう場合はどうしたらいいと思う？」と子どもに聞きながら、子どもが自分で考え行動できる力も育てていきたいと考えています。
(文責：校長 北崎 あゆみ)



桜谷自然だより7月「コチドリの子育て」

本校は滋賀県内で「愛鳥モデル校」として、毎年4年生が、専門家のお話もうかがいながら、総合学習で野鳥の観察に取り組んだり、巣箱の製作を行ったりしています。

というのも、本校はうら山・池・川といった自然も豊かなのですが、「野鳥観察」という視点で見ても、校舎のあちこちに「コシアカツバメ」の巣があり(一般の民家に住むツバメとはちがう種類)、毎年、子どもたちのそばで子育てしているのが観察できるからです。

ところで、今年をご存知のようにコロナウィルスで学校施設の使用が約3か月以上休みになったのですが、このことが、はからずも、もう1種類の野鳥に子育ての場を提供することになりました。例年なら、体育館の使用が昼夜と頻繁にあったのが、今年は3.4.5月とほぼ0になったために、体育館前のじゃりの駐車場に「コチドリ」という川原の環境を好む野鳥がやってきて子育てを始めたのです。

★6月10日、避難訓練の日、卵4個を確認。子どもたちにも観察してもらいました。

★その後、近づかないように、児童職員で見守っていました。親鳥は3~4週間あたためていました。

★6月下旬 ひなが誕生。全校児童の希望者に望遠鏡での観察をしてもらいました。

★その後、トコトコ歩きながら食べ物を探すひなと、「ぴいゅーぴいゅー」という警戒音を発しながら、それを見守る親鳥の姿がじゃり駐車場とそばの草地で見られました。

★7月上旬 大きくなってきたひながはばたきの練習を始めています。巣立ちは間近でしょう。



- ㊤ 生まれたばかりのひな
- ㊦ 生後2週間ぐらいのひなと親鳥



当初卵は4個ありましたが、ひながかえたのは2羽で、さらに子どもたちに観察してもらった後まもなく、1羽がいなくなりました。自然の厳しさを感じます。残った1羽には無事に巣立ちし、親鳥とともに南の国に旅立ってほしいものです。

㊦コチドリの若鳥の写真(別の場所で撮ったもの)→
!(^^)!こんなふう立派に育ってくれますように!



(文責：井野 勝行)